

【名称】大正ロマン館（旧篠山町役場）

【所在地】丹波篠山市北新町97番地

【指定番号】第2号

【指定年月日】平成28年2月16日

【構造】木造平家建

【敷地面積】1,557.83㎡

【建築面積】544.61㎡

【延床面積】544.61㎡

【建築年代】大正12年（1923）



大正ロマン館（旧篠山町役場）

#### 【建造物の由来・沿革・特徴】

篠山城跡の北隣で、行政、商業、文化機能が集積する城下町篠山の中心市街地の一角に建つL字型の木造洋風建築。

大正12年(1923)に篠山町役場として建築され、平成4年(1992)まで約70年、町役場として使用された。同年に改修工事を行い、平成5年(1993)からは、丹波篠山観光の拠点施設「大正ロマン館」として市民や観光来訪者に利用されている。



位置図

建造物の意匠は、明治40年(1907)に丹波篠山に設置された歩兵第70連隊の兵舎の意匠を参照したとされ、レンガの腰台、屋上にそびえる火の見櫓など、大正モダニズムの面影を今に伝えている。一説によれば、設計者は酒井己之助、施工者は大沼丑之助とされる。

館内にはレストランやおみやげ物を主とした売店の他観光客等が憩うサロンなどで、平成18年(2006)7月に、外観、売店、レストランの改修が行われている。

#### 【指定理由】

市内には数少ない近代化を物語る木造洋風建築であり、平成4年までは町役場として使用されており、丹波篠山の城下町から近代そして現代の歴史を物語る建造物である。

洋風建築の諸要素を集めた玄関周辺や出入り口部分に屋根を重ねた意匠が大きな特徴となっている。また、開口部や上げ下げ窓には、建設当初の古い建具が残されている。

加えて、役場としての役割を果たした後は、観光拠点施設として活用保存され、交流の場、スケッチや記念写真のスポットになるなど、多くの市民や来訪者に親しまれる施設となっている。

また、篠山城跡の北隣で、市民生活や観光の中心に位置し、西側、南側の道路は、通行量が多く、公衆からの視認性は非常に高い。敷地形状に合わせたL字型の形状を持ち、角地側にある玄関周辺の洋風建築意匠のこぢんまりと親しみのあるデザインは、近世城下町から近代を経た町並みの中で篠山として欠かすことのできない建造物である。